

# 体育科教育研究部

【平成24年4月現在】

主任 竹井 亮	部員 中川 昌子 佐藤 昭春
<b>研究主題</b> 運動の楽しさを感じて、 進んで運動に取り組む子を育てる体育科教育	
<b>めざす子ども像</b> 運動の楽しさを感じながら、身に付けた知識や技能をもとに進んで運動に取り組む子ども	
<b>研究目標</b>	子どもたちが、運動の特性や楽しさを感じながらこれまでの体育学習から獲得した知識や技能を状況に応じて運動に生かす力を身に付けるための授業の在り方を明らかにする。
<b>研究仮説</b>	運動の持つ楽しさや特性に触れさせ、言語活動場面や運動場面での見取りを生かして課題設定することで、思考・判断しながら身に付けた知識や技能を活用し、技能の高まりを実感して進んで運動に取り組む子どもが育つ。
<b>主題設定の理由</b> <b>1 これまでの研究と課題</b> 学習指導要領解説体育編では、体育科の目標として、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」「健康の保持増進」「体力の向上」が位置付けられている。生涯にわたって運動に親しむ資質や能力とは、 <i>運動への関心や自ら運動をする意欲、仲間と仲良く運動をすること、各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力、運動の技能などを指している。*</i> <sup>1</sup> とある。つまり、「技能」「態度」「思考・判断」をバランス良く関係付けて学ばせることが大切である。子どもに運動の持つ楽しさを味わわせ、これまで身に付けた知識や技能を活用し状況に応じて思考・判断させることで技能が高まり、より運動に親しみ、楽しむ態度が養われるのである。 一年次は、運動やゲームの状況に合った思考・判断をしながら、知識や技能を運動に生かす力を育むため、「振り返りのあり方」について研究を進めた。多様な状況に応じた試しの場で「自分の動き」に対する思考・判断を促し、振り返りの場面で、「なぜできたか」「なぜできなかったか」ということを話し合わせたり書かせたりした。成果としては、運動や動きについて理由付けて考えさせたことによって、自分の動きの継続・改善の見通しをもたせられたことが挙げられる。しかし、単元の終末において子どもたちが技能の高まりを実感できたかについては、振り返りの場面で見取ることが不十分であり、振り返りの方法について再度研究を進めていかなければならない。また、振り返りだけにとどまらず、言語活動場面や運動場面においても見取り、子どもが思考・判断し技能の高まりを実感できるように、教師が関わっていかなければならない。 そこで二年次である本年度は、運動特性や魅力に触れさせながら児童の学習意欲を高めて、子どもたちが技能の高まりを実感できる授業研究を進めていく。技能の高まりを実感させるためには、「わかった」「できた」と実感させることが大切である。そのために、一年次で研究した振り返りの場面だけではなく、言語活動場面や運動場面で、子どもたちが、どこで、なぜつまづいているのかを教師が見取り、つまづきに合わせた課題を設定する。そうすることで、子どもは思考・判断しながら動きを考え運動に取り組むようになる。子どもが動きを考え運動し、運動を心から楽しいと感じ、「わかった」「できた」と実感することができるように、子どもが自分の知識や技能を次の運動に生かすことができる学習を展開していく。それによって、発達段階に応じた「思考力・判断力」の育成をめざす。	

\*1 文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋館出版,2008,p.10

## 2 体育科における思考力・判断力・表現力

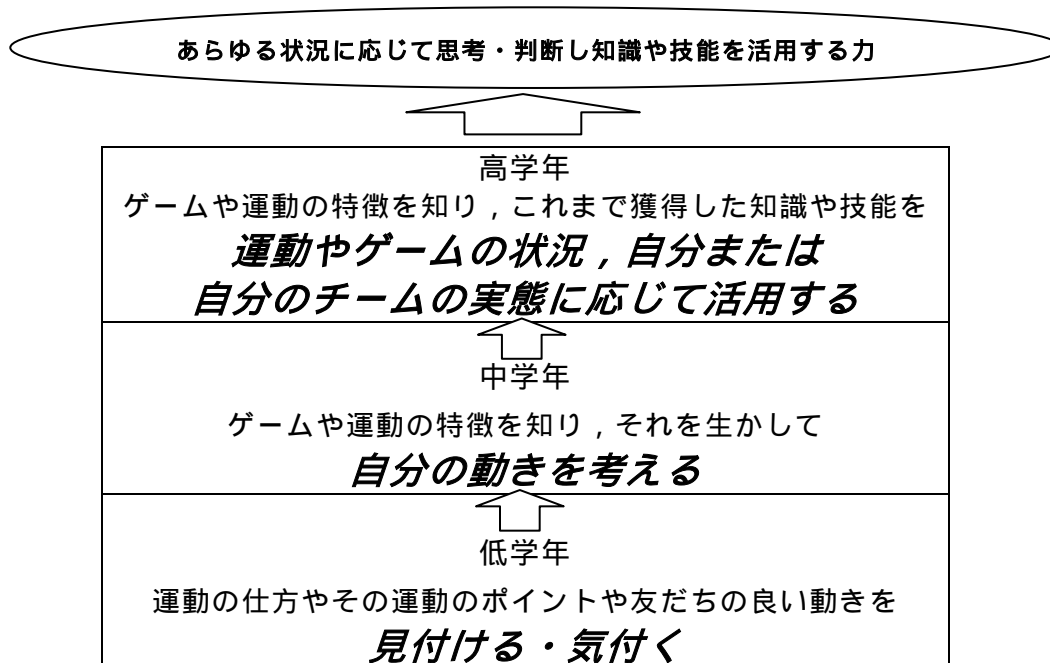
本研究部では、体育科における思考力・判断力・表現力を、次のように捉える。

思考力・判断力...よりよい動きを見て、自分の動きを考え判断する力  
状況に応じて自分（チーム）の動きを考え判断する力  
表現力...思考・判断したことを表すための言語活動  
思考・判断し考えた動きを、状況に合わせて動く力、技能

思考力と判断力については、運動において、思考し判断することが一連のつながりがあると考えるため、同様に扱うものとした。

本研究部では、学年の発達段階に応じた「思考力・判断力」の育成をすることによってあらゆる状況に応じて思考・判断し活用する力が獲得され则认为（図）。低学年では、動きの基礎的な技能を身に付けるために、よりよい動きを見て考え、見付けたり気付いたりする力を育成していく。そして、運動のコツやポイントを考えさせながら繰り返しその運動を行わせて技能や体力の向上をめざす。学年があがるにつれて、状況に応じて自分の動きを考える力や、身に付けた知識や技能を状況や実態に応じて活用する力を育成することをめざす。

図 6年間を通して育てたい思考力・判断力



## 二年次の研究内容

体育の学習を通して、運動やゲームの状況に応じて身に付けた知識や技能を運動に生かす力を育むために、以下の内容を研究内容として取り上げる。

- (1) 運動種目の特性に触れさせて、児童が運動の楽しさを感じられる学習過程の設定
- (2) 言語活動場面や運動場面、振り返りの場面での見取り方と見取りを生かした課題設定の在り方
- (3) よりよい動きを身につけるための場の設定や、身に付けた知識や技能を思考・判断して活用することができる場の設定

## 研究方法

上記の研究内容について、以下の手立てをもって有効であるか検証していく。

- (1) 仮説を基にした授業の実践
- (2) 子どもの発言や記述、動きの変容の見取り方と見取りを生かした課題設定の検証